

平成26年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について【学校版】

津山市立院庄小学校

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
心とからだをきたえ、ともに学び合う児童の育成 ・すすんでまなぶ子 ・やさしい子 ・やりぬく子	つながりを大切に ～言葉のちからで～ ・人・自然・社会にかかわり合いながら学習する子どもを育てる。 ・友だちとなかよくできる子どもを育てる。 ・互いに支え合い最後までがんばる子どもを育てる。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
<p>【学力状況調査の結果】</p> <p>全国</p> <p>国語Aも国語Bも正答率は、県平均よりもかなり高い、算数Aも算数Bも正答率は、県平均を上回っている。国語では、A Bともにすべての問題において無解答率が県平均よりも低い数値となっている。国語Aと算数Aでは、すべての問題において無解答率が0であった。算数Bでは、示された情報の中から必要なものを選び、それらを使って論理的に考えていく問題に課題がある。国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する;本校88.0%(県75.0%) 問題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む;本校88.0%(県64.7%) 二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述する;本校80.0%(県57.1%)</p> <p>県</p> <p>社会と数学は県の正答率を上回っており、国語と理科は下回っている。社会と数学は基礎問題、国語と理科は活用問題で県平均を上回っている。国語の「文法・語句に関する知識」に課題が見られる。数学の領域では「図形」、観点では「数学的な考え方」に課題が見られる。</p>	<p>【学習状況調査の結果】</p> <p>平日にテレビを1時間以上見る児童の割合は県平均と同程度だが、2時間以上見る割合は県平均よりもかなり低い。平日にゲームをする児童の割合は県平均と同程度だが、2時間以上する割合は県平均よりもかなり低い。平日も土日も、1時間以上家庭学習をする児童の割合は、県平均よりもかなり高い。家で学校の宿題を「している」と答えた児童の割合は、100%である。平日に10分以上読書をする児童の割合は県平均を上回っているが、30分以上の割合は低い。「読書が好き」という児童の割合は、県平均よりも低い。「近所の人に出会ったときは、あいさつをしている」生徒の割合は、県平均を下回っている。「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」児童の割合は、100%である。算数ではA Bともに、解答時間が「余った」「ちょうどよかった」と答えた児童が県平均をかなり上回っている。「授業のはじめに、目標(めあて、ねらい)が示されていた」と答えた児童生徒の割合は県平均を上回っているが、「授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていた」と答えた児童生徒の割合は、県平均を下回っている。「自分には、よいところがある」と答えた児童の割合は、県平均をかなり上回っている。</p>

成果と課題	課題に対応した改善方法
算数・数学はすべて県平均を上回ることができた。国語・算数のA問題では、すべての問題において無解答率が0であった。「漢字の読み書き」「四則計算」等の基礎的な力が伸びてきた。家庭学習の習慣が、定着しつつある。ノーマディアデー等の取組が、テレビの視聴時間短縮につながってきている。読書の習慣は付いてきているが、読書が「好き」だから行っているのではないという意識も見られる。あいさつ運動に取り組んできた成果が、生徒の意識に反映されていない。長文を含む問題では、尋ねられていることに対する情報の取り上げ方や、答え方等が食い違っていることが多い。	読み聞かせボランティアと協力しながら、さまざまな内容の本とふれあう機会をより多く持つ。読書週間を利用し、学級でキャンペーンを張るなど、落ち着いて読書に取り組む経験を積ませる。「ふり返し学習」の時間を有効に活用し、既習の漢字や計算等を繰り返し復習する。ICTを有効に活用することで、言語活動の時間をできる限り確保する。めあてとまとめを明示した授業を継続する。家庭学習100%提出の取組を継続する。児童の家庭での生活や学習習慣を整える取組を、今後も続けていく。人のために働く経験を積ませ、児童の自己有用感を高める。

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
2月に学力テストを全学年で実施。児童アンケートを毎学期末に実施。保護者に協力を働きかけ、家庭学習をさらに充実させる。上記の結果を受けて、指導方法等の改善を図る。	学力テストでは、50%以上の学級が正答率で全国平均を上回る結果を出す。宿題の提出率を、全学年で90%以上にする。「自分のいいところ」を、全学年全児童が5つ以上言えるようにする。